

ミニシンポジウム記録

水産技術者の業務と技術者倫理

萩原 篤志* (長大院生産)・久下 善生 (東光コンサルタンツ)・佐藤 秀一 (海洋大)・良永 知義 (東大院農)

Research activity and ethics of fisheries engineers

ATSUSHI HAGIWARA,¹ YOSHIO KUGE,² SHUICHI SATO³ AND TOMOYOSHI YOSHINAGA⁴

¹Graduate School of Science and Technology, Nagasaki University, ²Head Office, Toko Engineering Consultants, ³Faculty of Marine Science, Tokyo University of Marine Science and Technology, ⁴Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

はじめに

地球的規模の食糧危機と気候変動が顕在化し、地域の水産業従事者の高齢化と後継者不足が深刻な問題となっている。このような情勢の中にあつて、次代を担う人材に対し、幅広い知識や考察力、問題解決能力（デザイン能力）を修得させると共に、科学者や技術者として備えるべき倫理観を涵養することが、水産系大学の大きな責務である。

本シンポジウムでは、実社会で問題解決にあたる水産部門の技術士の方々を講演者としてお招きし、社会や地域の振興に関わる活動の一端をご紹介いただくことにより、水産系大学のデザイン能力や技術者としての倫理観を育成するための教育方法の指針を得ようとした。水産の多岐にわたる分野の業務にあたる水産部門の技術士の仕事は、とりもなおさず水産系の大学教育の出口の典型と言ってよいであろう。様々な制約のある社会情勢の中で課題を探究し、問題の解決にあたる技術士の活動には、研究の計画立案や技術者として直面する倫理的事項が生きた教材の形で含まれている。すなわち、学生や技術士を目指す卒業生の副読本となるような書籍の出版も視野に入ってくるなど、水産学会と技術士会との連携を強化することの意義は大きいと判断される。

また、修了生が技術士試験の第一次試験が免除される日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定プログラムは水産系で 8 校に達している。教育システムの構築と改善に対する大学の社会的責任や、技術士を目指すプログラム修了者へのフォローアップのあり方等を論議する場としても、水産学会と技術士会との連携は今後ますます重要となる。

本シンポジウムは、以上の考え方のもとに、日本水産学会・水産教育推進委員会が企画、主催した。

(プログラム)

開会の挨拶

萩原篤志 (長大院生産)

座長 良永 知義 (東大院農)

1. 水産業をめぐる技術者倫理

渡邊悦生(海洋大)

2. 森川海の水産支援・循環型複合技術システムの展望

井上祥一郎(名邦テクノ)

座長 佐藤 秀一 (海洋大)

3. 地域特産化へ向けた「魚沼美雪ます(ニジマス異質三倍体魚)」の安全・安心

網田健次郎(網田技術士事務

所)

4. 水産物トレーサビリティシステム導入による漁村地域の活性化

桑原伸司(北日本港湾コンサル

タント)

休憩

座長 萩原 篤志 (長大院生産)

5. 技術者は HACCP を正しく理解しよう

西川研次郎(西川技術士事務

所)

6. 予測の可視化技術を用いた公衆とのコミュニケーション

岩見聡(オリエンタルコンサル

タンツ)

関達哉(元・千葉水試)

7. 水産部門技術士の現状と課題

久下善生 (東光コンサルタン

ツ)

8. 総合討論

座長 萩原 篤志 (長大院生産)

久下 善生 (東光コンサルタンツ)

佐藤 秀一 (海洋大)

良永 知義 (東大院農)

閉会の挨拶

久下善生 (東光コンサルタン

ツ)

*Tel: 81-95-819-2830 Fax: 81-95-819-2830 Email: hagiwara@nagasaki-u.ac.jp